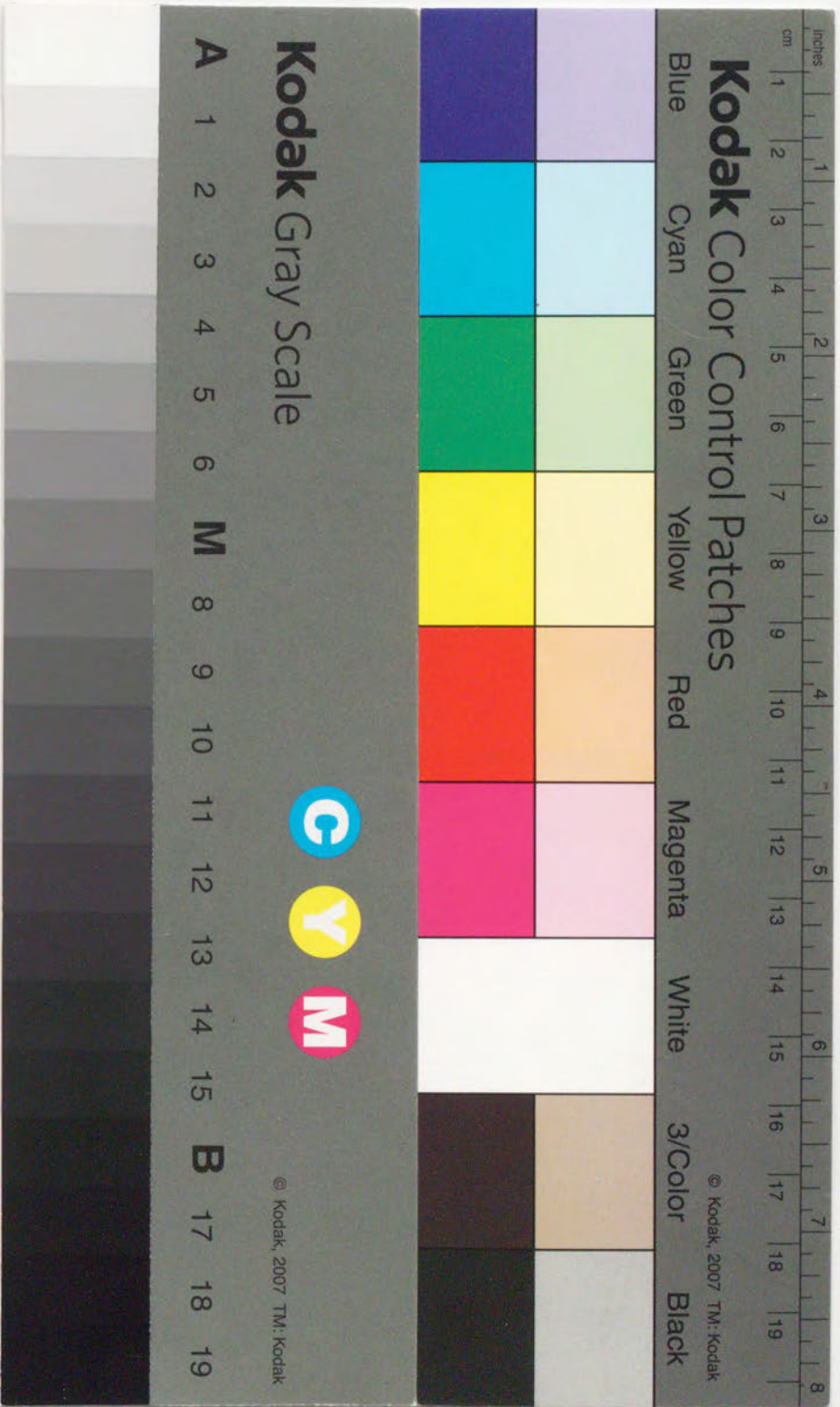




教訓は加算紙の叙



大徳ふきき書を引て曰く世國の以て軍するふしは
唯善い室より室人善なる所の忠孝及び善仁
勇其善小在る不善なる則ち不忠不孝不仁不勇
若し善人あらずんば善あらずんば必れをむくこと
人を教ふる法必先善を教むるなり其の糟粕と
一善由りて人を教え導く徳ありて人を教ふ
字書を著して善なるを教ふしむる善を教ふ
すれ一端あるん人夫れ善く其徳を教ふる可也





月の新乃

何

り

水

教訓御伽草紙初編卷之上

東都

松亭主人輯録



世に人間初め母の胎内より産まゆるは僅かに
血ありて五七情固来りておきやうとあり
の。我を心より更し飲食の念もあらず。人
あまざる。飲め。終る。心。有。て。无
慾。我。多。る。佛。と。い。ひ。聖。と。い。ひ。ま。ん。そ。の。蠢。く。虫。の

どくろりの小乳房で含ませ。暑さ寒さも程よく
おどろかす。あぐと今抱く育て揚る。お親の
丹誠今きりひふあをば。お親の可愛き一心で
り。その身の疲も厭いぞ。或ひは尿尿小襟きり
で。洗ひ濯ぎて活——ともあひいぞ。殊小兒を湯に
有服く洗ひ不豆と医書ゆもあるぞ。その堅実
ぎまひ。やもまひ風寒暑湿ゆも抱き易く殊小
疣瘡麻疹。小兒一代の大厄。その病小罹るさ
は。

お親の眼も寐で飲食も怠る。須臾も心
慰め女抱し。更小神佛成す。面成情只常順
應小半愈せん。成頼ふの外他事。その苦
辛のたゞでや。斯くあの大厄もあまひ。漸七八歳
ありふるき物讀と始り。武家の武藝成熟し。農
人の耕作の道成。教え職人をまくの業成習し。
商人は讀書算用成始り。其の要交易の道成
学ばしめて。あつく世にふる便術を覚え。一生安楽ふ

俗よの側はたとある。あの僕わが彼かれを母親おはは辭はなせてより。彼かれ辰たつみの
 日ひあり殊ことごと更またもあはれ多おほく。是こゝで生うまへんとしあふその幼こ勞らう
 のむすめありてあはれんとひて。一日いちにち物もの食を食を懷おも旧ふる淚なみだと
 みて旧ふるきと涙なみだ懷おもひて。涙なみだあむせびうとありや
 世よの情なさけ人の為ためあはれとありて涙なみだあふる。天下てんか固こ
 家かの君きみとあり。只ただ仁に成なりりて泣なむとあり。涙なみだあはれき
 のも理りに於おて二ふたなり。仁に心こころと常とこ小こ志しも移うつり家か富とみ榮さかへ
 子こ孫その健たけなふより。繁はげ昌さかなりと歎なげかむありのあり。

愛小北條泰時々くまう 鎌倉の執権小とくけん 時政ときまさ 孫まご 多おほ 外ほか
 あひみ常じょう と守まも り。内うち 入い る義興ぎきう の心こころ 沸わ く。人ひと と恵めぐみ と成なり と懐あつ
 まむと。父ふ 母はは の孩こ 児ご 成なり ちのお 人ひと が如ごと し。一ひと 時とき 凶きよう 年ねん づき まく
 関東かんとう の氏うぢ 仇かたが 小こ 苦くる しと笑わら ち。米こめ 金かね 成なり ち多おほ く物もの 々々々々 あは成なり
 救すく ひ。授おとづ ちその上うへ 中なかつ ち米こめ 金かね 成なり ち而しか 姓せい 小こ 貸か ちえ米こめ 年ねん 出で 来き
 秋あき 成なり ちのお 人ひと 々々々々 返かへ 流なが ちとと 券てん 状じょう と出で させせ け。あうちふ
 その翌あつね 年ねん も季き 候こう 悪わる ち々々々々々々々 凶きよう 穀こく 登のぼ ち。諸あま 人ひと 々々々々
 歌うた 々々々々 骨ほね と嘔えず ち。云い 々々々 年ねん の借か 用よう と返かへ 流なが ち々々々々 時とき あり

ぬれど。まづ、凶年ありて返るべき御計多。如くせん
と案じ給ひ。教奉行られ土地と云く。他國へやゆんと
辨義二函くあるまじう。泰時自らあの國へ下向あり
と云く。百姓等いまだく返る。いづるも知らあらずんと
安き心より下り。泰時より下り。希く田畑の景
勢と巡見し。さく百姓等成嘆びあり。打續まての凶年
汝等さうと。教奉行し。め。それとも吾等の所乃領主
あり。汝等い吾兒ふある。争で兒の秘義成除所ふ

久。吾獨樂む。本年莫大の借金成貸えられど。
返るべき限あるも。ドけし。あのうへ返濟ふ及ばぬ。則
その為の券状成焚捨るありと云。かの券状數百通成
りあり。諸人のより前より焚捨けし。老若男如る
いふ及ばぬ。いま十家斗りの稚き兒まで。その仁
徳に感ト。涙成流し。涙滴して。教の御殿より
あらん。然れども斯連年の凶兆多。是より米穀乏しく。と
價もあましく。高値なれば。困窮いよく甚しと云く。



倉廩を困きて救ふんとせしむ。近事収納少
きふ本年も莫大の施し。や困の穀物も乏し
けむと。重役の者さへぐ銭論といひけむ。泰時工夫
あり。きふ今在る処の米穀然渠等も賣与え近々西園
四園の米より買入るべしと評議擧。領内の穀屋然
収集め。ちのく入れとあそべしとありけるや。吾こそ
落れふありて一廩の米を買うけ。一時ふゆふんと坐
腹と認め。堅く封し。入れとあそふける。かくて困れの

日小至ま。泰時自ら上座に在り。勝も汲人形よりびく
かの入れ紙振きけり。各々高座あり。中ふみゆ
うけん。只一枚格外小下座より入れあり。汲人等うち
笑ひて腹へ除る紙。泰時あそべしとふみ把あげ。これ小
落れふしといふ。汲人等紙振抄へんを入れハその内の
ふみ落れふし。世上の通例あり。然るに格外より安れへ
落しめんと。如何ゆえといひけむ。泰時莞示と笑ひ
其方等よりみ処大み理の背け。その通例のあり

今山幸小〜百姓塗炭の苦〜。吏と救ん爲小賣
あふ米穀と争う爲小賣人や。渠も亦小賣と〜
り利を加え〜いよく富小賣人〜。下座小賣と〜自
ら下座ある〜。さうぞ人救ふの道理不悦いぞ
と。拾外下座あるれ入〜者人悉く賣とされけとぞ。
果〜相場大に弛〜。賊死の者も〜取續き〜と
らん北条家九代の間。抗権の賊居て海内小威を震ひ
榮耀小修り〜。偏小泰時が仁徳の政あると〜わ

▲その前稻毛入道重成を。頼家卿の四子一幡君乃外
戚と〜。官中の出立〜。元来強欲の人と〜下座
隙と〜の心あり。是も山幸小當りて百姓の苦〜を一面
なすも顧〜。金法と食りて飽事あり〜。一人その
頃稻毛が願内と通りけつ小。米穀弛より三倍の富
あれ。その人怪〜土地の者小同小。當願主とのいひ
ことしめん。米穀の壱段は方より沙汰するまへ。下座小
争うべとあり。其故に此が願主の問ひ穀と市中へ持

おまう、おまう。あの掛ひふ添うへ。下落する。と
密に張る。その人仇弾と。主退ける。ある小我程も
多し北條が落し亡き。刻々一幡君も渠等と俱に世を
去る。本心ふある。と。則不仁の報ひあり。実小天の昭く
き。一毫の非も覆ふ。なう。ば
▲凡君臣父子夫婦兄弟朋友のう。和さ。さ。理ふ。く
是と。倫といふ。ある。君の禮あり。臣の忠あり。父の
孝あり。子の孝あり。兄弟の愛敬あり。朋友の信あり。ま。夫婦

の愛敬の情。ゆ。格別ある。況て兄弟ハ他人の物
と。法ゆ。ゆ。如く。良も。ま。ま。妻子の妨られ。兄
弟の愛敬と。ま。の。あり。人として。情。あ。う。ひ
ら。小九民日向國米良といふ。山中。小。常。田畑の業
多。あ。の。山。小。長。漆の木と。生。ま。ふ。あり。の。新。の。山。民。皆
彼漆を。漆。て。治業と。ま。あ。小。安。な。り。と。り。者。例。の
ど。漆。掻。ふ。あり。山。谷。と。經。巡。る。治業を。勉。め。ふ
過。つ。て。漆。を。谷。川。へ。流。す。う。あ。る。あ。の。男。元。來。水。練。ふ

達しこれに衣類を脱ぎかき谷川の氷を潜りて水底へ
 入りて石をさす。水底一面は漆あり。是はあつ奥山は
 駁しき漆の樹ありとも。巖石谷門は隔りて人の往
 來へき所あり。わが常は搔人多。然るに樹の生まぬく
 盛ふくは繁茂し。或は炎暑の爲に裸に洪水は
 押多され。紐吉より水の所は漏りて多。安れた門
 とは然るく大に脱ぎ。吏より密なる淵ありて多くの
 人より。同屋へ行く。俄に大分の得つたぬ。迫るに

者もいそいそと筒板の漆をぬきやと怪しむに因次ぞ
 けるが。別々^{別々}の十文湯とてそのみ不審^{ふしん}はそひと
 言別^{言別}の仔細^{さいしゆ}をこのとをきけり。一時十文湯密に兄
 を見ふ。少くも^{少くも}なりけり。ふらふの淵へ入りて数多の漆を
 把揚^{とやう}るをえり。叔をそこを脱^{だつ}その漆を密に^{ひそかに}淵へ
 入て見ふ。その漆数千さなり。むすむ十文湯大きく飲ひ
 ときを把て詰ける。兄をたふしめをて我語りて安んぬ。正
 々。吾一人得づんと思ひて渠^{かみ}み知^しる。まゝにそを味^{あじ}ふ

あね。行く工夫と懲り細工人と情と大さある龍頭の。
さも生る如く方と揺へる。例の逢寒水の巖のふへ
揺へあきけま。烈しき流の龍頭の。わくくと動めき紅
の舌と吐方存在ま。多く作物ふえをを斯く芽も是
小怖も重く来るま。と。獨笑しく在けるが。果しく十念満
例のどく。例へ入りくえ。小巖の間より金色の光りを輝し。
紅の舌と吐て。只一口吞んとす。景勢ふ。現もむふ
劇也。後き周章く。逃げ取り。き後ハ曾て性也。安んづる

仕まう。うと獨笑しく。あ。例へ入り漆と把んとす。ふ。
かの龍の威勢。宛然生る。如く。一身一縮ふ。怖しき
喻へん。さ。多けま。い。多き。逃揚り。熱とわ。ふ。吾。泥り
おん。さ。細工の。あると。ま。お。ま。ふ。ふ。と。自ら。心。張
ふ。さ。く。ま。水底へ入り。龍。改。て。る。ま。ば。後。怖しき。怖
百倍。く。二眼と。る。ま。き。や。う。る。け。ま。ば。ま。逃。揚。り。熱。す。と。
月と。三。の。度。ふ。及。べ。ど。多。く。怖しき。漆と。把。ま。や。う。う。
あ。ふ。於。く。亦。因。ふ。や。う。か。く。瑪。瑙。と。ぬ。方。ど。れ。漆。と。吾。の

把む人の中も把めぬ本を有り。まゝ人どくろひ彼能
死と切放ちて。杖く人と俱ふ把んふ如くと云ひ置あ。
銀ある朋友五七人ふ。おひくこのより紙張うけをば。その中ふ
も若く血氣多族を。安んずるが腫病然笑ひ言う。おろ
あの淵へ来う。吾を能死と切放ちあとも。水中へ潜り
入るふ。何時より能死と親や入けん。その威勢凄どそ
傍へも寄つけぬ。人々も族き用毒く逃る。その後わ
惟わゆくあの淵へ入んとあふのけ。あふあの淵ふ

常ふ常わひさあ。折く毒氣あてられ病のあ在
とまん。然もああの能死と親の入りけりとひりく難いける。元
より細く一ふりのふ。親の入まきばあとのいども。傳説ふ
の貪睡痴の三毒で大蛇ふさくらとす。まゝ安んずるが
貪欲心するいああの能死と親の入りけりてまゝふ。かく斗り限り
ふれ漆と見ゆ。此方よりあうくく多とも。兄弟
俱くふ把て富で受をさふ。已に獲得つんと。張まき
心の鬼とも蛇ともありつる

園とちふこふまうえん運こ々まうえん安こ禪こ小こ僧これこどもこ然こふこあこるこむこ武こ藏この
 國こ隅こ田こ川このこ川こ宗こ。清こ々こ濁こどこのこ々こ。昔こあこのこ邊このこ寺こ
 小こわこりこ一こ撞こ。あこのこ川こ小こ沉ことこ如こ外こふこ一こもこ揚こらこるこ。一こ時こ
 毛こ綱ことこ撞このこ就こ必こ不こ結こ付こてこ引こ揚こふこ。さこのこ毛こ綱こ
 弗ことこ断こ離こるこ。おこ小こがこくこ人こ力こ小こ及こばこざるこ張こ暗こり
 捨こ率こ一こがこ。いこのこ順こ小こ也こ是ことこ見こんことこ。水こ底こへこ入こり
 人こありこ。然こるこ小こ彼こ毛こ綱こはこ方こへこ教これこくこ。そこのこ怖こくこ喻こ
 へこるこ。撞このこ龍こ只こ自こらこ其このこ龍こ小こ異こることこ見こりこ。

今亦其測の主と公修ふ

ちりー式諸侯の秘藏せられけり。硯箱の失うるを。隈
 り穿鑿せられけり。小性汲何某の狭箱の中より
 出たり。かの小性汲ふども知らざるゆゑ。吾狭箱より
 出たり。云々分るごとく。既に切腹と定まりけるを。汲小性
 の常より目然りけり。仕ひする下僕。自ら紙へ曰。汲硯箱の
 吾等が盗よりとれど。ある。汲主なき所あり。主人の
 校箱入る。その罪よりして主人の切腹と兼り。

あゝげんき慚愧さうご後悔こうごありぬ。庶幾しかんの吾われで罪つみして人を件くだりしと
 とひけしと。官人くわんにん因よて斯かく本人ほんじん明白めいぱくあるといひ。幸さいて小姓せうしやうは
 臆おそまをきとてとて成なり件くだりし。則すなはち下僕げふくを死刑けいめいにせしめける。
 斯かくて後のちゆ。殿とのの諸あまたを具もつ失うしなるゝ数回かずかいあり。あは成なり穿鑿せんさく
 あるふまゝ小姓せうしやうの被へ屋やより要もとめふ。這回このかいも云い救きうきある切腹せつぷく
 小極こごくありあゝ。暫しばしばく被屋へやの押おしきく在あり。あは要もとめふを勢いきなり
 次坊主じふくしうの在あり。一時ひととき小姓せうしやうの被屋へやより要もとめふ。その下へ
 入いり。押入おしいし。あはとあがの小姓せうしやう汲人くみんの如ごときその

うし成るく怪美と解ひける。宵人等立合へて、
 殿の刀袋あり。叔をそとく、彼次坊主を捕へ、
 了。逸く白状小及び。去年硬箱の失うしも吾所
 あり。女迎あればまづ小性於屋へ入しおき折て見合せ
 持物あり。明白小言しけしは、がの小性の寛で終ま
 ほうふ死刑小なる。さうに彼下僕賊しき身といふもの
 命小換りし。は、此小章と上下流で流しその忠義
 と感トけるとや。昔ハから下賤の者由も。命張替

卷之五

人として不仁
 なし禽獸小
 等一故に
 貪瞋痴の三
 毒を大蛇小
 喻する



白蛇

忠と濁。ま後の義とせんより惜みその姓名を記さば。
何方の人とも成るべ

▲雞の子羽創といふなり。その利得廣大なるものとて今も所都
出ありとぞきく。然れども凡そ生類は殺さずと罪深きこと既に
契り居城の農民ある。自由なる肥。大根牛蒡を代りとして
その名の貴義するなり。我ハ雞を烟んとて庭に養ひて雞糞を
を烟らば卵と産むべしとせ。その雞も卵と産むゆゑ勿れ千羽小
充て。美雞ハ目も卵を産むるべし。とて把つて賣

排ハ。先雞ハあり。卵も産む。あや殺し。食する。小。
大根牛蒡の味も。遠く播ねる。只貴の味を以て
家も富男女の子供四五人持て。豊小世成送りけるが。
その子依二十なり。十七八或ハ十二三あり。悉く
死果する。終小病ひつゝ。漸く小なり。既ハ死さんと
する。日み日希なり。一向小食事せば。父母とて歎て
食事を減むれば。病人死より。その食とて。之の時
教。一粒と拾ひ。食する。宛然雞の卵と養ふ

何れ

二十

どー。その子信一人毎ふる斯のどくーく死失う。
を数年難と殺し方報ひる王を暗り。夫婦
髪と落し回國小あうとるん

和歌の徳ありて今まうふ及ぶ元来皇國の
云ふあれ。然のむづーきふあうむ昔ハ賊女
山児のさひ。食歌みけや。今ハその體まゐぐふる。
法式定まりんより。師ありて泳得るやうふありぬ。
往昔より歌と泳て命を佐う。罪と免るる方活柄

多し。お小沢庵和尚ハ衣高き禪僧あり。悟及んさう
ゆものもぞ。歌もよく泳けりてあん。一時一人の盗人あり。
密小和尚が希替の衣類と。盗るるまわんとれ。
澤庵和尚目ぞく兄知る。そまくと喰ふ。一肯の
歌歌うのめくやーぬ

かれせ小僧さ成まり今侯あり。今侯あり
後の世ふとらとる盗人小者。盗人うち吟トく
歌の道を暗りやしけん。彼希替をわくまはしけり

ちりー貪あしき農夫のうとの畠はたけ小泰こたいで仰あやりかきん。ちや菊きく
とんとちりあのの衆しゆ。何者なにものとも知しらね残のこりき
斯かて盗ぬすまう。その農夫のうとをえん。作しやう天てん一いつ無なしとふ
然しかど。一いつ首くびの衆しゆとくえん。畠はたけの衆しゆをえんうける

我われちりあのまきとて人ひと小ちきうねん。今いまより後のちに
あひてたの衆しゆとてえん盗人ぬすびともあひてとやえん。
粟あはふよ。元もとの所ところへもちきりて仰あやりけり。是こゝ
ちりあの丹に次じ一いつく仰あやり。是こゝを盗ぬすまれ。世よに力ちからあり

きて。その衆しゆとてえん。盗人ぬすびとも感かんぜん。返かへり
方かたまり。至いた天てん地ちと貫つらぐとてえん。紀き貫くわん之のグ
お今の衆しゆ。天てん地ち衆しゆ動うごく。鬼人きじんと感かんぜん。ちりあのえん。
環かんふひとてえん。ちりあのえん。

ちりー江戸えど振ふ町の衆しゆ。貪あしき。今いまより後のちに
はち衆しゆとてえん。一時いつとき例れいのどく。衆しゆ衆しゆとてえん。
ちりーふ。山王さんおうの社やしろ。衆しゆとてえん。今いまより後のちに
ちりあの衆しゆ。男おとことてえん。頻しばしばりふ悪念あくねん萌もす。

とまじけし中へく食さるべとあり心より。四邊を見れば幸
人も居ぞ。もつ雞とさへ傍より樽を伏せく。米成搗
終ら持てゝんと云ふ所ふ。ちや益飯ありと吸ふは
そのまゝ。その所の勝多へ入り版を食けふ當下隣長屋の
家根と修みゝ所方家根背遙ふと云ふ。彼奴
少の雞と盗み。枵の中伏おけく今益食み候なり。
その間ふかの鶴成盗み。ゆゑ鼻ありきんと云ふ。客の
と人あり。枵をわけく雞とゆゑ。あゝ報し。懐ふ所

とまじけし中へく食さるべとあり心より。四邊を見れば幸
人も居ぞ。もつ雞とさへ傍より樽を伏せく。米成搗
終ら持てゝんと云ふ所ふ。ちや益飯ありと吸ふは
そのまゝ。その所の勝多へ入り版を食けふ當下隣長屋の
家根と修みゝ所方家根背遙ふと云ふ。彼奴
少の雞と盗み。枵の中伏おけく今益食み候なり。
その間ふかの鶴成盗み。ゆゑ鼻ありきんと云ふ。客の
と人あり。枵をわけく雞とゆゑ。あゝ報し。懐ふ所

ままの方に向ひく。一心不乱のやうに下りけり。波に根
 着て、目と目とをさへみせしうち、後ひびくと奥のやうに
 言ふ。その
 言ふが家内より。かの雑と調理―酒席へ奥下りけり。斯の
 米搗は心より。尚神罰と云ふとける由、織小社に―
 さあぐの鑑を以て罵り。一向小雑の工の之に走る。妻はさう小
 金もやうに。さうさ中に加持祈禱など物まねど、後
 あり。目も小舞りやねひまゐる。度根背も迎魚のやうに
 あり。然るに得乳の毒あり。雞ハ吾々が把さる。神

罰^{おち}ありとやふがゆふ。心^{こころ}う狂^{くる}れあふなり。吾^{われ}く狂^{くる}れんを
 王^{きみ}を具^{もつ}ふ強^{つよ}りきバ。速^{すみ}ふ心^{こころ}を納^{おさ}めん本^{もと}復^{かへ}すべし。と
 頓^{とん}て二人^{ふたり}の屋^や根^ね背^へ米^{こめ}搗^う男^{おとこ}の方^{かた}へあは。如此^{あかく}その狂^{くる}え
 全^{また}くその難^{むづ}い。神^{かみ}のさう返^へしめふあふ。智^ちをさふくゆを
 法^あめん本^{もと}復^{かへ}あねと示^ししけき。狂^{くる}ひまふるを止^とめ。途^{みち}方^{かた}
 あく二人^{ふたり}を導^えれんとし折^やう。米^{こめ}搗^うの妻^{つま}は在^あるふふ
 庵^{いん}丁^{てい}と把^やね。家^や根^ね背^へ後^{うしろ}より力^{ちから}ふ任^{まか}し切^{きり}つ。全^{また}くこ
 文^{ふみ}の狂^{くる}れしを。汝^{なんぢ}等^ら野^のろふを在^あし。あ恨^{うら}む是^{こゝろ}より

又一人小切に。二人を不意に打ち。血を泥まじり。殺さるる
も。長足の甲乙は。あり。まづ把押へ。病人の藤原波尾は。
その發動大なるべ。斯てあるまじく。わづ。その工を。併へ
檢断と。形ひける。ふ。に。目。す。間。ふ。か。米。搗。男。の。狂。ひ。死。ふ
死。一。二人の。屋。根。背。の。病。を。浅。け。ま。と。矣。斯。て。や。あり。け。
その。病。の。果。けり。程。ある。と。を。併。へ。ける。ふ。か。妻。の。二人。狂。
殺。一。方。罪。あり。と。い。ふ。も。元。來。二。人。が。所。あり。ふ。か。夫。の。狂。
死。一。方。と。同。じ。の。恨。と。報。え。る。と。い。ふ。所。あり。ふ。か。他。の。

悪心あり。既ふ。夫。由。その。狂。死。を。死。一。方。に。家。族。背。と。も。ふ
二人の。死。は。已。ま。罪。已。ま。を。責。る。の。さ。は。な。れ。ば。と。く。その。妻。の
所。の。内。外。男。の。あり。一。と。い。ふ。や。曾。子。曰。爾。ふ。か。の。ハ。爾。ふ
く。ろ。と。大。宜。あり。ふ。か。と。二人の。死。は。各。神。罰。あり。此。の。味。ひ。ふ
迷。ひ。て。父。母。の。迷。路。を。喪。ふ。愚。と。い。ふ。ん。不。孝。と。い。ふ。ん。
愈。と。く。と。是。等。我。等。の。く。より。死。我。等。の。恨。む。と。い。ふ。ん。

教訓御伽草紙初編上終